

支部報告

関西支部報告: 令和4年度 関西支部大会

Kansai Branch Report : 2022 Research Presentation Meeting

坂上 ちえ子 鹿児島県立短期大学
Chieko Sakagami Kagoshima Prefectural College

関西支部では、門司港レトロ地区での開催以来、10年ぶりとなる九州での対面会場と、遠隔会議システムを利用したハイブリッド形式で、令和4年度の支部大会を実施した。

- 開催日: 2023年3月4日(土)、会場: 鹿児島県立短期大学および遠隔会議システム Zoom によるオンライン開催、参加者: 対面参加と遠隔参加を合わせて44名。

研究発表 (○は登壇者)

■セッション1 座長: 森本一成 (京都工芸繊維大学名誉教授)

- 「色覚異常における短波長光の赤み」, ○朝倉すずか (九州大学), 井下大樹, 村谷つかさ, 須長正治
- 「狭帯域原色の波長と異常三色覚のオブザーバメタメリズムの関係」, ○井下大樹 (九州大学), 村谷つかさ, 須長正治
- 「DeepSortを用いた人物追跡における照明変動の補正」, ○石川喜貴 (大阪電気通信大学), 土居元紀, 西省吾, 来海 暁

■セッション2 座長: 土居元紀 (大阪電気通信大学)

- 「おいしく見える片手持ち弁当箱の開発」, ○澤 知佳子 (大阪市立大学), 酒井英樹
- 「チョコレートの背景色が味覚・触覚・温度感に及ぼす影響～無彩色を含む56色について」, ○富田圭子 (近畿大学), 安井夕海, 寺田有希菜, 内田 和, 河浦萌海, 船本真由, 澤田美絵
- 「色彩が商品パッケージの高級感にもたらす影響」, ○浅野 晃 (関西大学), 有泉太地
- 「浮世絵に使用された色材の分光反射率について－豊原国周「見立橋尽日本橋河原崎三升」(個人蔵)を対象に」, ○田口智子 (東京藝術大学), 奥田紫乃, 岡嶋克典

■セッション3 座長: 坂上ちえ子 (鹿児島県立短期大学)

- 「色覚異常」である人の「困難な」職業選択: 芸術家や商業デザイナーへのフォーカスグループ・インタビュー」, ○村谷つかさ (九州大学), 谷口由乃佳, 市原恭代, 須長正治
- 「きもの」の2色配色感情評価と被験者の属性との関係」, ○片山一郎 (近畿大学), 玉置一茂, 能口祥子, 高田瑠美子, 瀬川かおり
- 「東山魁夷が思考した美意識の特徴—言語文化論の視点から」, ○吉村耕治 (関西外国語大学短期大学部名誉教授)



◇鹿児島県立短期大学正門(上) ◇発表会場(下)

例年以上の発表数があり、内容も多岐に渡り非常に充実していた。10件中4件は、学生による発表であったが、いずれも興味深い内容で、質疑応答も活発に行われた。

学生・院生を対象とした優秀発表奨励賞は、九州大学の井下大樹氏が受賞された。

特別講演

横浜国立大学大学院の岡嶋克典先生には、遠方の鹿児島までお越しいただき、「社会に役立つ色覚研究～カラーマッチング、質感、ユニバーサルデザイン～」と題する特別講演を行っていただいた。内容が多彩であったため、参加者が各自の研究分野以外にも深く知ることができるご講演であった。以下に、概要の一部を紹介する。

一本講演では、色覚研究の具体的な応用例として、異なるデバイス間のカラーマッチング技術、人工物や自然物の視覚的質感の制御法、視覚情報のユニバーサルデザイン手法に焦点をあて、色覚研究に関する最先端の話題からその重要性について概説し、今後の展望を述べる。-